

# 図書館創立100周年!

みんなに愛されて

特集

↑多久村立図書館の本館(写真手前)とレンガ造りの書庫(写真奥)野中史雄さんによって昭和30年代に撮影されたもの

大正11年、炭鉱王・高取伊好が多久村に寄附し、大正13年3月に創立された多久の図書館。県内に31ある公共図書館のうち、5番目に長い歴史を持ちます。

当時の図書館では、学校と連携を取りながら童話会、作文発表会などを実施。婦人会や青年団の文化活動の拠点としても活用されていました。建物は木造の本館とレンガ造りの書庫からなり、本館には書架や閲覧室を設置。書庫には聖廟関連の道具、東原廬舎の教科書、多久家にまつわる古文書などの貴重な資料を所蔵しています。書庫は多久市立郷土資料館書庫として、今も現存しています。

昭和55年8月に中央公民館が新たに建設されると同時に、図書館も現在の場所へと移転。以来40余年、今の地に在り続けています。

## これからも“知と交流の拠点”として

創立100年の節目を迎える、辻館長は「多久では言葉の大切さや文学・芸術に触れる素晴らしい経験をたくさん受け継がれ、育まってきた」と語ります。図書館もその一翼を担つたのだと改めて感じます」と歴史の積み重ねを語ります。

また、現在では寄席やプログラミング教室など、年間をとおして多種多様なイベントを開催しています。

多久市立図書館はこれからも本と親しみの機会を提供する場所として、さらに未来へと歴史を紡いでいきます。

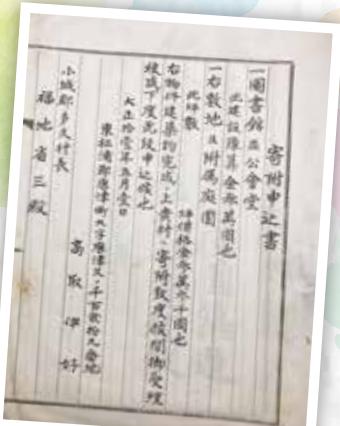
建設されると同時に、図書館も現在の場所へと移転。以来40余年、今の地に在り続けています。

館長就任当初から図書館を“知と交流の拠点”として発展させたいと熱意を燃やしている辻館長。「多久市立図書館は、1人になりたい時も、1人になりたくない時も、みんなの居場所としてここにあります。今年度は100周年イベントも盛りだくさんなので、みんなでワイワイと図書館の“100歳”をお祝いしたいですね」と明るい笑顔で話します。

辻 成美  
多久市立図書館  
館長



↑小林金男さんから寄贈された多久村立図書館の模型  
(郷土資料館所蔵)



↑高取伊好から図書館建設のための寄附申込書控(郷土資料館所蔵)

